

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立高山工業高等学校

学校番号

59

1 学校教育目標	確かな学力、健やかな身体、豊かな心を育み、社会の変化に対応可能な揺るぎない知識や技術で、地域の将来を担うエンジニアリーダーを育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	○自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒 ○他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒 ○地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒	○課題を発見し解決する力を育成するための「基礎的・主体的」な学びの推進 ○地域素材や地域資源を生かし、地域と連携した「体験的・実践的」な学びによるキャリア教育の充実 ○生徒一人ひとりの個性を伸ばし、ものづくりを通じた専門的な学習による「先進的・探究的」な学びを実現するカリキュラムの編成と、個に応じたきめ細やかな指導の実施	○ものづくりに興味があり、仲間と協力しながら共に知識を深め技術を高める意欲のある生徒 ○自ら将来を切り拓く目標を探り、その実現に向かって積極的にチャレンジする生徒 ○専門性を生かした地域と連携した活動、生徒会活動や部活動等に積極的に参加し、活気ある学校を築こうとする意欲のある生徒
3 現状の分析	○明るく素直な生徒が多く、挨拶、礼儀、身だしなみ等は概ね良好で、安定した学校生活を送っている。 ○積極的に資格取得やものづくりに取り組み、習得した知識や技能を生かして進路目標を達成するとともに地域社会にも貢献している。 ▲義務教育段階の基礎学力や学習習慣が身につけていない生徒の割合が増加している。 ▲特別な配慮が必要な生徒が増加しており、生徒間トラブルや不登校気味な生徒が増えている。		
4 学校の抱える課題	・専門的な知識や技術で地域に貢献する人材を育成するため、義務教育段階の基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ・ICTを効果的に活用する学習活動を充実し、非常変災時等においても生徒の学ぶ機会を与える体制づくりをする必要がある。 ・個に応じた共感的な指導及び外部連携を活用した支援を充実させ、よりよい人間関係を構築できる生徒の育成を図る必要がある。 ・「ものづくり」を通じた地域連携活動を精選し、地域と一体となった人材育成を図り、地元就職率を上げる必要がある。 ・地域、中学生、保護者に本校の「ものづくり」教育の魅力を伝え入学生の増加に繋げる。		
5 今年度の具体的な重点目標	◇生徒一人一人の「基礎・基本な学力の定着」を図り、「主体的な学習態度」、「倫理観や規範意識の醸成」、「自ら判断し行動できる能力」の育成とともに、「個に応じた進路選択」や「職員の働き方改革」の体制を整え、さらに地域や各種関係団体等と緊密に連携し「地域社会に貢献できる人材」の育成に努め、開かれた学校づくりを目指す。		

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
学習活動	①ICTや観点別評価を活用した授業改善に積極的に取り組み、基礎的・基本的な学力の定着	①・授業アンケート ・定期考査の結果 ・課題等の取組状況 ・生徒実態調査	①ICT機器の活用による授業改善や出席停止の生徒に対し、オンライン授業を行うことで授業の遅れに対応した。またレポートや課題のデジタル提出などの活用方法が増加した。	B	○観点別学習状況評価について、各教科科目の特性を考慮した仕組 ○ICT機器を活用した学習活動の増加	A B C D
	②コミュニケーション能力と問題解決能力の育成	②・地域連携事業の評価と分析 ・各事業実施状況 ・生徒、参加者のアンケート	②地域連携事業において、サテライトキャンパス（新商品開発と販売）等の活動やSDGsを考えたものづくりをテーマとした課題研究を実施できた。	A	○基礎力診断テストは入学時から3年間で向上傾向を維持 ○地域への専門教育の還元 ▲観点別評価の結果の還元（教員と生徒） ▲教員のICT活用力向上	
	③観点別評価を活用し、指導と評価の一体化から授業改善	③・生徒実態調査 ・授業アンケート ・学習指導委員会等	③各教科による観点別学習評価の研究と実践を行うとともに保護者に周知ができた。	B		

生徒指導	①規範意識の向上と自立心を持ち自律する生徒の育成	①・身だしなみ指導の状況 ・迷惑調査の結果 ・生徒の出欠状況 ・道徳教育振興会議外部アンケート	①道徳教育研究を通して対話的授業の公開や、生徒会主体による生徒心得についての共通認識、さらにMSリーダーズによる小学校との挨拶運動の実施ができた。	A	○道徳教育の推進 ○教員と生徒が「生徒心得」の共通認識 ○いじめの早期対応
	②自他共に尊重し望ましい人間関係を作る力の育成（個に応じたきめ細かな指導、生徒理解に関する職員研修、SC、SSWの活用等）	②・担任等との面談状況 ・ケース会議等の実施状況 ・外部専門家の派遣要請状況	②いじめ防止等対策検討委員会の適切な実施や 専門家（スクールカウンセラーや医療機関など）との連携することができた。	B	▲基本的な生活習慣の改善 ▲専門家との連携の継続 ▲個別の支援計画の有効的な活用
進路指導	①専門的技術の向上 （資格取得の推進、外部人材を活用した技能教育、ものづくりコンテスト等に向けた技能、発想の向上）	①・資格の取得状況 ・ものづくりコンテスト等の成績 ・進路補充状況	①ものづくりコンテストの結果は中程度の水準であった。デザイン思考ワークショップや技能里帰り講話を実施し生徒の専門思考を高めることができた。	B	○進路行事の実施による進路意識の向上 ○県内就職者の確保 ▲高工キャリア・パスポートの効果的な活用
	②キャリアプランニング能力の向上 （キャリア・パスポートの活用、地元進路先等見学会、中長期インターンシップの実施）	②・企業見学実施状況 ・卒業生と語る会の実施状況 ・卒業生の追跡調査	②求人人数が過去最高となる中、本校の生徒数減少により企業への就職人数は減少したが、希望する進路を決めることができた。	A	▲地元企業就職率向上 ▲多様化する進路希望への対応や効果的な支援方法
学校経営	①新施設・設備の運用	①・使用状況等	①BIM、メカトロニクス実習装置の実習への導入、各装置設備の教員研修の実施	B	○新しい実習装置を導入した授業展開
	②社会貢献活動と広報活動の充実	②・活動の実績状況 ・各活動参加者アンケート ・報道機関での掲載件数 ・本校への志望状況 ・HPの更新状況	②小学校へのものづくりボランティア、公共団体とのものづくり協力、ホームページの更新、学校紹介ポスター配付、学校紹介リーフレット、オープンキャンパス、卒業作品展の案内配付等実施	A	○専門性を生かした社会貢献活動の継続 ○WEB情報更新の充実等の広報活動 ▲老朽等による施設・設備の更新
	③職員の働き方改革の推進 （デジタル活用による業務の効率化の推進）	③・出勤の記録と時間外業務の削減状況	③生徒欠席連絡のネット連絡、出張回と復命のデジタル入力、部活報告と時間外報告の一本化、夏季冬季休業時の管理当番の廃止、デジタルによるアンケートの実施等	B	▲地域貢献活動の準備時間の確保 ▲新規入学者数 ▲働き方改革の継続

○成果 ▲課題

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月28日

・新しい設備や生徒の活躍を広報する等、工業高校の良さをアピールするとともに、入学した生徒を大事にして確実に卒業できる学校を期待する。

・地域貢献活動で工業高校生と触れ合う中で身近に感じ理解に繋がっている。飛騨の匠という土壌をうまく活用し、これからも地域に根ざした学校を目指してほしい。

・3年間の集大成である卒業作品展で生徒の成長した姿が感じられた。今後も工夫をしながら、確実に力を付けさせ工業高校生が地場産業を支える人材になれるとよい。

・生徒会を中心に社会との接点を考えながら学校生活等を見直す取組は素晴らしい。今後もプロセスを大切にしながら生徒主体で活動できるよい。

・社会人でも人間関係の問題がある。学生のうちからコミュニケーション能力を育てるとともに人間関係をうまく構築する力を育てるとよい。

・ICT化が進み、さらに専門性が高度になっている。子供たちの学ぶ意欲を止めずに、新しい技術を取り入れ、新しい事に挑戦するとさらによい。

・オンライン授業は、対面授業に比べ、できないことや伝わらないことがあるため難しいが、学習補償という点では必要である。

13 来年度に向けての改善方策案

・中学生及びその保護者、中学校の先生方に「ものづくり」の魅力を伝えるための行事を継続実施するとともに、新たに「たかこう新聞（仮称）」を各中学校に配布するなど情報発信を通じて学校の魅力を伝え入学生数の増加に努める。

・「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」等の「ものづくり」活動を通し、地元企業との連携活動をしながら生徒の実践的な能力を育てるとともに、地元就職率の向上に努める。

・外部と連携し個に応じた支援の継続と望ましい人間関係を構築できる生徒の育成を目指す。

・インターンシップを通したキャリアプランニング能力の向上や生徒の進路希望の多様化に対応した指導が行える体制づくりをする。

・主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践を行うために、ICTの効果的な活用（宿題を含む）やグループ活動による学習活動を充実し、生徒の学習に対する意識改革を促す。

・生徒の振り返りの効果を狙った観点別評価の工夫と指導の改善を進める。

・生徒に関わる時間や工夫した授業の準備時間を確保するため、日常業務のスリム化やデジタル化を進め、教員の働き方改革をさらに推進させる。